

# エッセイ検査の合間に イラクの友 マインダー達

岩本友則

私達の査察活動に対して、イラク政府の随行者が必ずつきます。私達は、彼らのことを「Minder(マインダー)」と呼んでいました。マスコミの報道において、国連の査察に対するイラク政府の非協力や妨害などが伝えられていました。しかし、イラクに行ってみると、状況は全く異なるものでとても協力的なのです。私を助け協力してくれたイラクの友マインダー達を紹介しましょう。

## 1. とても親切

イラクの人達は、私達に協力的で親切でした。私達が、車に隊列を作って査察に行く場合があります。この様な時、イラク警察が同行して交通整理をしてくれました。また、道に迷って困っている時など事務所まで案内してくれるなど、多くの親切と助けを受けたのです。

私たちの査察活動に同行してくれるマインダー達の車にはエアコンがありませんでした。皆さん気温が50度を超える中で冷房の無い車を、想像してみてください。私も試してみました。窓を開けて走れば、熱風が入ってきます。窓を閉めて走れば、強烈な日差しが窓越しに入りたちまちサウナ状態です。そんな大変な中、彼らはとても親切に対応してくれたのです。

しかし、彼らが、豹変し不親切かつ非協力になる時がありました。それは、査察官の中にアメリカ人が加わっている時です。彼らに言わせれば、湾岸戦争において、イラクを破壊し、親族を戦争により失った事が、彼らにそのような行動をさせていたのです。

国連の活動に対する非協力的な対応や妨害行為は、アメリカ人に対するものだと感じたのです。日本のマスコミは、アメリカ寄りのニュースソースを基に報道されたもので、現地で取材したものではないのです。

## 2. マインダー達

私達の検査査察に対し協力してくれたマインダー達を、紹介したいと思います。ロイ、ナティック、アジ、アリ、シャッカーの5名が協力してくれました。

右の写真は、ロイです。彼は、イラクでは少数のキリスト教徒でした。ですから、イラクでは珍しく奥さんも1人でした。彼は、温厚な人物で、私にイラクの事を教えてくれました。

イラクの南部へ査察に行った時、私は奇妙な家の風景を目にしたのです。それは、家の屋根や家の壁の廻りを、刈り取った草で囲っているのです。彼によればそれは、天然のクーラーだそうです。その草の葉は、厚くて丸みをおびているのです。そのため、水を沢山含んでいて、イラクの強烈な日差しの中でも3~4日枯れることなく水分を保っていて、その草で家の廻りを囲っていると室内の温度を下げ、その草を通して家に吹き込む風は、爽やかなのだそうです。



ナティックは、マインダーの中では一番若く、少し短気です。イラクのお茶（チャーイ）のお礼に、日本から持って行ったティーパックのお茶を、飲ませたら、日本のチャーイは、とてもマズイと言っていました。イラクの暑さには、砂糖を入れた熱い紅茶が合うようです。また、彼は原子力の技術者であり、湾岸戦争の時、ある研究所の防空壕の中で、米軍の爆撃の恐怖に脅えた体験を涙ながらに語ってくれました。

アジは、とてもユーモアがある人物ですが、攻撃的なところがあり、私達査察官と、幾度となく口論したのです。

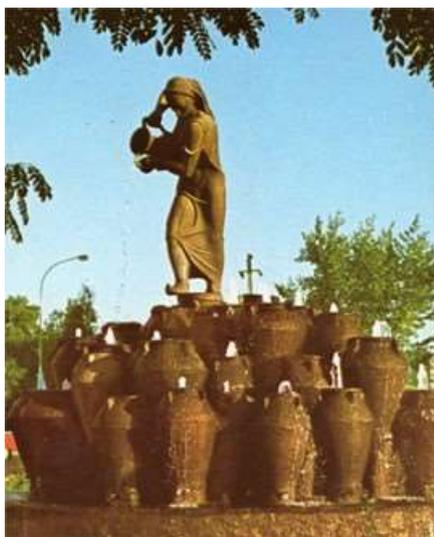
アリは、マインダーの中では、一番の高齢でした。彼は、右足が悪く、不自由な足で私達に査察の対応をしてくれました。彼の、膝にはプルトニウムが埋め込まれている等の噂がありました。

シャッカーは、核査察に対応するマインダーを統率する責任者であり、政府の官僚でした。とても、威厳に満ちた人物で、人格的にもすばらしい人物でした、

ある時、査察が終わり皆でくつろいでいる時、彼は言うのです。フランス政府は良いが、フランス人の査察官（その時のチーフです）は悪い。一方、日本人の査察官(私です)は良いが、日本政府は、悪い。フランス人の査察官が理由を聞くと、フランス人の査察官は、動く物を見るとすぐ飛びつくカーボーイ的な査察をしている。日本人の査察官は、論理的に査察を進めている。国連の安全保障理事会におけるフランスの発言は、イラクの現状とイラクの将来を考えた発言であるのに対し、日本政府の発言は、アメリカの発言をくり返す発言・・・と言うのです。

### 3. 荒れ果てたイラク

イラクにおける爆弾テロ等の痛ましい事件が、頻繁に伝えられます。そのニュース映像には、見覚えのある場所がたびたび映し出されます。それらは、私が滞在した当時から比べ、荒れ果てた姿に変わってしまっているではありませんか！バグダッドの多くの場所が破壊され、北の都市モスル（ニ



ネベ）が破壊されて行くではありませんか！ あるとき、第4話「イラクのハイウェイは戦車、馬車、人の横断」で紹介したアリババのガールフレンドと私達が呼んでいた噴水のモニュメント(左の写真)が映し出されました。しかし、すっかり変わり果てたその姿に、驚いたのです。

私が滞在した当時は、写真のように噴水の廻りには、多くの木立があり、噴水には水苔がありましたが、木立は全くなく、水苔は消え、乾燥のあまり真っ白なアリババのガールフレンドになっていました。

荒れ果てていく映像を見るたびに、イラク戦争は、何か一つでも良いことを作り出したのでしょうか？ 結果的にイラク戦争は、平和を作り出すどころか、新たな災いを作り出したのではない

のでしょうか？

私も含め多くの人が携わった国連活動が確実に機能していれば、このような悲しい結果になることは無かったでしょう。

#### 4. イラクを後に

日本に帰る日が間近に迫った8月の始め、私は、査察の命令を見て喜びました。それは、査察に行く施設の名前に「ウル」という文字が入っているではありませんか。ウルはバグダッドから南に約300kmの所にあります。私は、聖書に出てくるアブラハムのふる里ウルに行けるという期待で胸が膨らんだのです。しかし、イラク政府と国連との間に緊張が生じたために実現しませんでした。

イラク滞在中、私を助けてくれたマインダー達に、私のイラクにおける最後の査察任務が終わった時、彼らに感謝の言葉を伝え、平和になったらイラクに再び来たいと思いを告げ、別れたのです。

私が、イラクで2ヶ月強無事に過ごすことが出来たのは、一重に彼らの協力と支えがあったからです。2002年の終わりに**国連大量破壊兵器廃棄特別委員会(UNSCOM)**に代わり国連監視検証委員会 (UNMOVIC) が設立され、2003年の1月より査察活動が再開されました。査察が再開されたニュース映像に、ロイヤリティックの姿が映し出されていました。そして、彼らの元気な様子に安堵したのでした。しかし、イラク戦争になり、その後のニュースにおいて彼らを見つけることは出来ていません。

イラクに滞在中、私は、彼らと何度か食事をしました。そんな中で、彼らの思いや悲しみにもふれる機会がありました。

イランや北朝鮮の状況を見ると平和的な解決が導かれることを祈るばかりです。

終わり